

2012/6/7

## 柏の景気情報（平成24年5月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成24年5月分）

○ 調査期間 : 平成24年5月21日 ~ 5月24日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	95	55.6%
建設	47	29	61.7%
製造	36	17	47.2%
卸・小売	49	31	63.3%
サービス	39	18	46.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年5月の調査結果のポイント】

◀ 業況DI更に悪化 全国との差がひらく ▶

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.4(前月水準▲26.2)となり、マイナス幅が▲2.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.4(同▲41.1)、製造業▲17.6(同▲22.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲11.1)、建設業▲24.1(同▲20.6)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲22.2ポ

【建設業】からは、「耐震補強の問い合わせが順調新築の問い合わせは、減少」(一般土木建築工事業)、「相変わらず新築着工は低迷。先行きも見えない状態が続いている」(石工れんがタイルブロック工事業)、「太陽光発電が増加してきている。材料ガソリン代の値上がりで利益率は下がっている。輸入製品の粗悪なものが出回らないか心配」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「引合から受注に向けた動きはあるが、短納期の要求が強くなっている」(その他の機械・同部品製造業)、「円高による採算制への影響が懸念されている。また電力の供給いかんによっては休日等の変更も必要となってしまうかも」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「ゴールデンウィーク後需要が大幅に減った。単価は低価格品中心に動いて高額品は不調。店ごとに売れ筋がばらばらで業界の売れ筋商品が出ていない」(婦人・子供服小売業)、「相変わらず景気は良くなりません。景気が悪いのに仕入単価が高いのは毎年春先は生鮮食品が値上がりするからです。今年も景気の悪さが感じられます」(相変わらず景気は良くなりません。景気が悪いのに仕入単価が高いのは毎年春先は生鮮食品が値上がりするからです。今年も景気の悪さが感じられます)、「改修工事等が動き出している節があり期待している」(塗料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「1室単価は維持するものの、稼働率は伸び悩む。定例の宴会は規模縮小の傾向あり」(ホテル)、「個人需要は堅調、法人需要は先行き不透明」(旅行業)、「放射能による影響がますます増えています。外部からのお客様はほとんど無くなりました。地元のお客様のみの売買取引営業を強いられています」(不動産管理業)などの声が寄せられた。

◎電気料金値上げ・節電

各業種から、「ガス販売量は昨年比較マイナス4%、節電指向によるエネルギー全体の節減が夏に向け進む見込」(ガス業)、「昨年に比べ動きはあるが半年先の仕事は見えない。電気料金の値上がりも厳しい」(建築用・建設用金属製品製造業)、「一方的な電気料の値上げ反対。今年は昨年のような無計画停電にならないよう、企業が協力し合っていないかと思う」(各種食料品小売業)、「今後夏場に向けての電力不足や電気料金の値上げ等電気に関する不安材料が懸念されます」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種から、「耐震工事に付加する形で受注は増えたが天候が不安定で思ったように工事が進まず余計な経費がかかっている」(塗装工事業)、「天候不順による建築工事の減少遅れも出ており、受注競争が激化している要因かもしれない」(その他の職別工事業)、「前月に引き続き春季の冷温の差が影響し野菜果実とも期待数量が入荷できず単価高となっています。依然として取引は厳しい状況です」(食料・飲料卸売業)、「天候不順の為夏物(衣替え)が厳しい。今後の暑さに期待する。割引セールの実施で売上は前年並みに維持するが利益が薄い」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎売上減少

各業種から、「5月度、GWは天候不順から気温が上がらず盛夏物の動きが鈍かったことに加え、昨年実施した「スペシャルセール」の反動から売上高は厳しい結果となった」(その他の各種商品小売業)、「ゴールデンウィーク以後売上の減少があります。色々な原因は有ると思うがひとまず仕入先において単価を下げてもらった」(酒場・ビヤホール)、「競合ホテルの開業により宿泊の一室単価が下がり売り上げを落とす。宴会も企業宴会の減少により売り上げを落とす。益々柏のマーケットが厳しくなったように思う」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲31.3	▲28.0	▲32.0	▲37.5	▲25.0
1月	▲28.9	▲10.3	▲16.6	▲44.4	▲40.0
2月	▲33.0	▲20.0	▲26.0	▲52.7	▲23.5
3月	▲20.3	▲9.6	▲21.7	▲35.2	▲10.0
4月	▲26.2	▲20.6	▲22.7	▲41.1	▲11.1
5月	▲28.4	▲24.1	▲17.6	▲35.4	▲33.3
見通し	▲29.4	▲24.1	▲11.7	▲38.7	▲38.8

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年5月の業況についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.4(前月水準▲26.2)となり、マイナス幅が▲2.2ポイント拡大した。

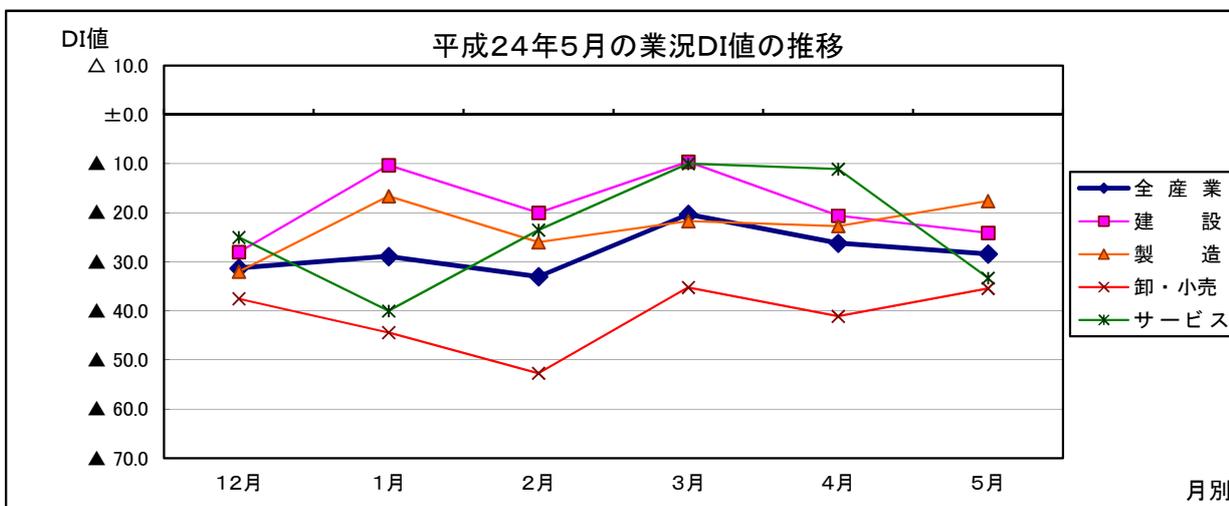
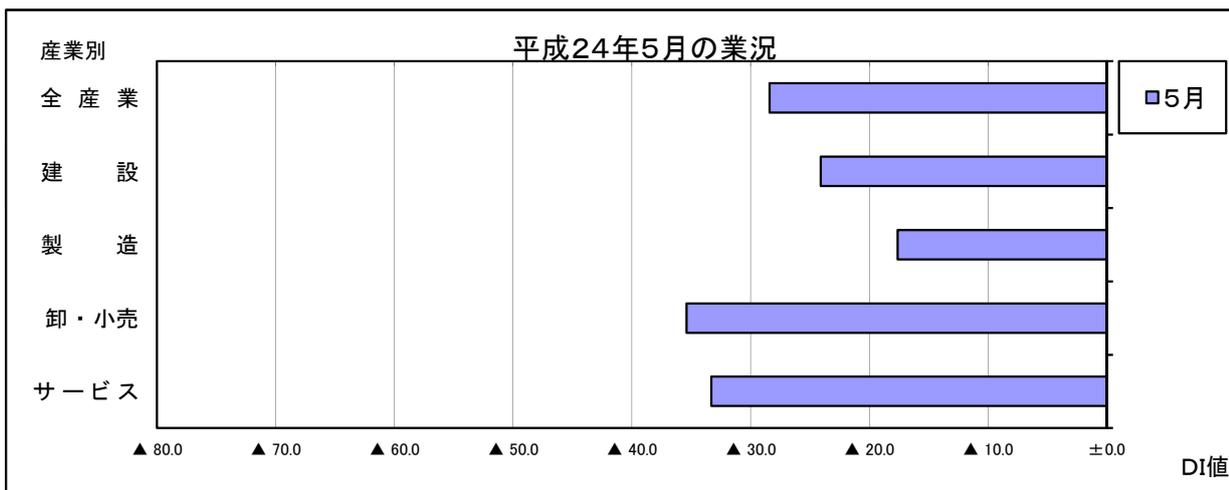
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.4(同▲41.1)、製造業▲17.6(同▲22.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲11.1)、建設業▲24.1(同▲20.6)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲22.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.4(前月水準▲26.2)となり、マイナス幅が▲3.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲11.7(同▲22.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲38.8(同▲22.2)、建設業▲24.1(同▲20.6)、卸小売業▲38.7(同▲35.2)である。

平成24年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲31.3	▲28.9	▲33.0	▲20.3	▲26.2	▲28.4	▲29.4(▲26.2)
建設	▲28.0	▲10.3	▲20.0	▲9.6	▲20.6	▲24.1	▲24.1(▲20.6)
製造	▲32.0	▲16.6	▲26.0	▲21.7	▲22.7	▲17.6	▲11.7(▲22.7)
卸・小売	▲37.5	▲44.4	▲52.7	▲35.2	▲41.1	▲35.4	▲38.7(▲35.2)
サービス	▲25.0	▲40.0	▲23.5	▲10.0	▲11.1	▲33.3	▲38.8(▲22.2)



【平成24年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17. 8(前月水準▲14. 5)となり、マイナス幅が▲3. 3ポイント拡大した。

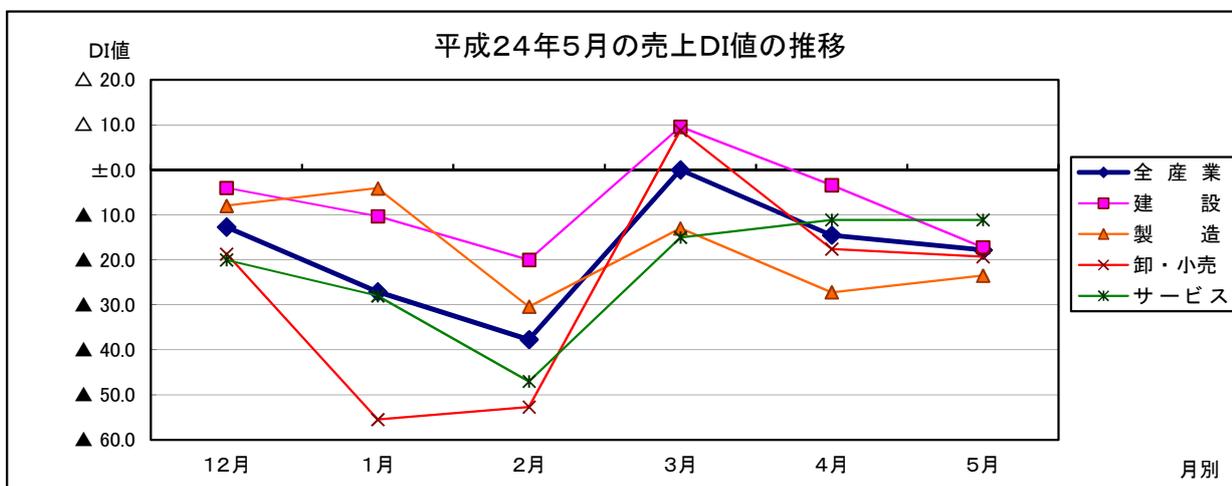
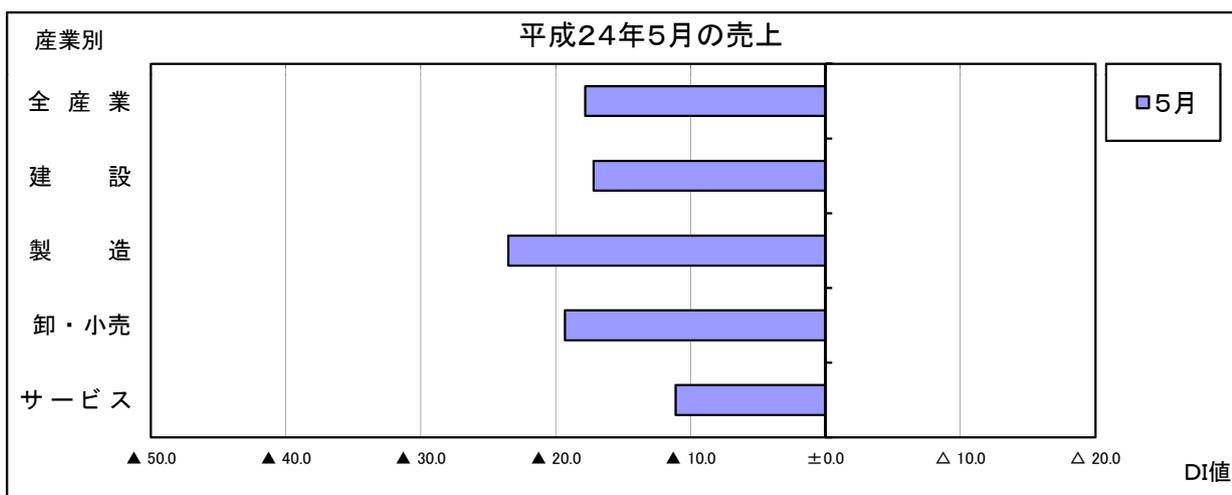
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲23. 5(同▲27. 2)である。変らない業種は、サービス業▲11. 1(同▲11. 1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲17. 2(同▲3. 4)、卸小売業▲19. 3(同▲17. 6)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14. 7(前月水準▲10. 6)となり、マイナス幅が▲4. 1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0. 0(同▲9. 0)、建設業▲10. 3(同▲13. 7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33. 3(同±0. 0)、卸小売業▲16. 1(同▲14. 7)である。

平成24年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲12.7	▲27.1	▲37.7	±0.0	▲14.5	▲17.8	▲14.7(▲10.6)
建設	▲4.0	▲10.3	▲20.0	△9.6	▲3.4	▲17.2	▲10.3(▲13.7)
製造	▲8.0	▲4.1	▲30.4	▲13.0	▲27.2	▲23.5	±0.0(▲9.0)
卸・小売	▲18.7	▲55.5	▲52.7	△8.8	▲17.6	▲19.3	▲16.1(▲14.7)
サービス	▲20.0	▲28.0	▲47.0	▲15.0	▲11.1	▲11.1	▲33.3(±0.0)



【平成24年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.5(前月水準▲23.3)となり、マイナス幅が▲8.2ポイント拡大した。

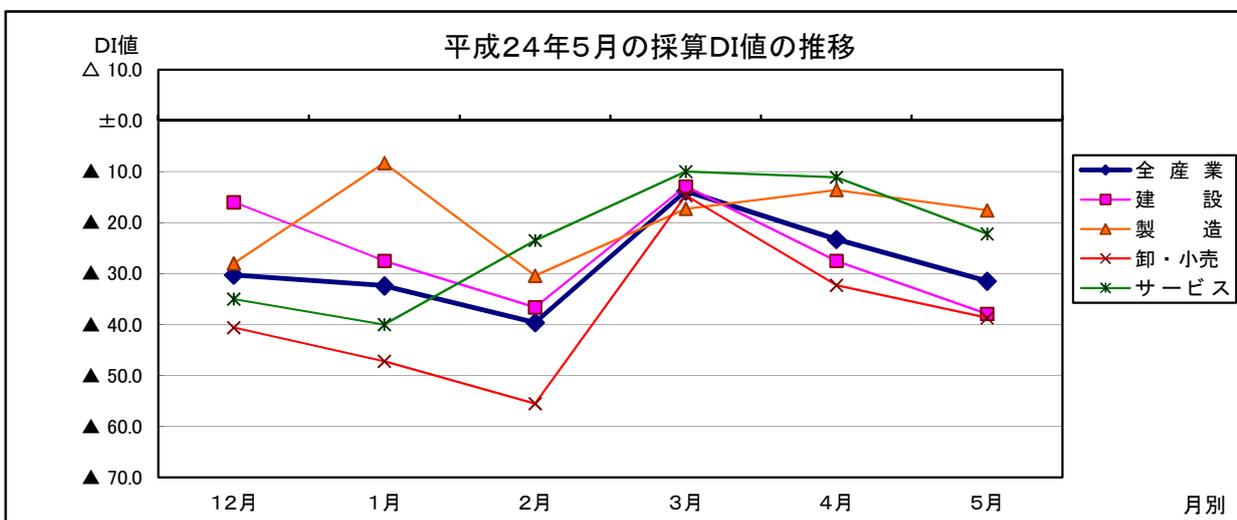
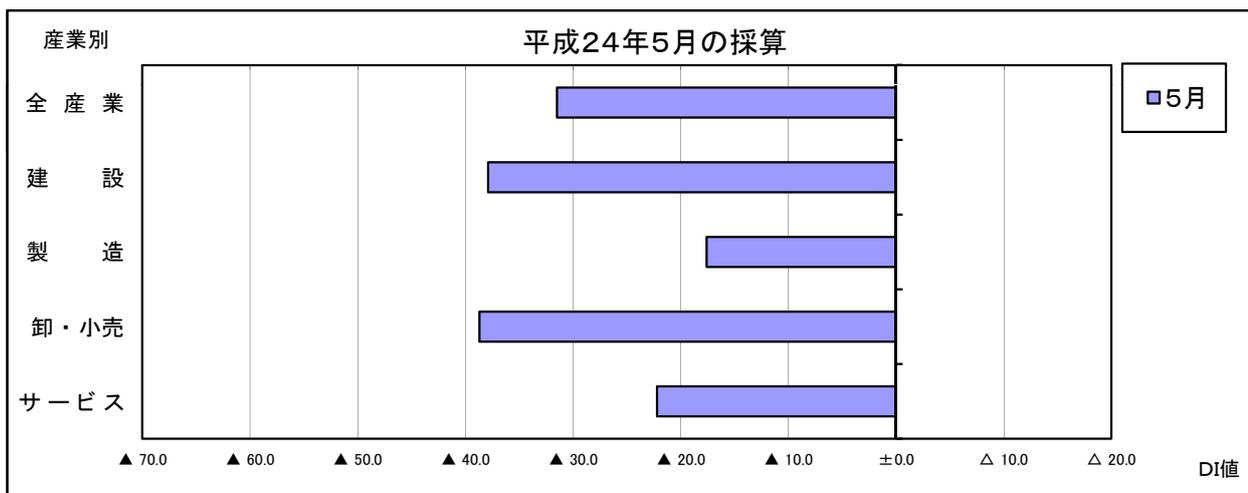
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲22.2(同▲11.1)、建設業▲37.9(同▲27.5)、卸小売業▲38.7(同▲32.3)、製造業▲17.6(同▲13.6)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.2(前月水準▲22.3)となり、マイナス幅が▲1.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲22.7)、建設業▲27.5(同▲34.4)、卸小売業▲19.3(同▲20.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲38.8(同▲5.5)であり、マイナス幅が▲33.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲30.3	▲32.4	▲39.6	▲13.8	▲23.3	▲31.5	▲24.2(▲22.3)
建設	▲16.0	▲27.5	▲36.6	▲12.9	▲27.5	▲37.9	▲27.5(▲34.4)
製造	▲28.0	▲8.3	▲30.4	▲17.3	▲13.6	▲17.6	▲11.7(▲22.7)
卸・小売	▲40.6	▲47.2	▲55.5	▲14.7	▲32.3	▲38.7	▲19.3(▲20.5)
サービス	▲35.0	▲40.0	▲23.5	▲10.0	▲11.1	▲22.2	▲38.8(▲5.5)



【平成24年5月の仕入単価についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.4(前月水準▲34.9)となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小した。

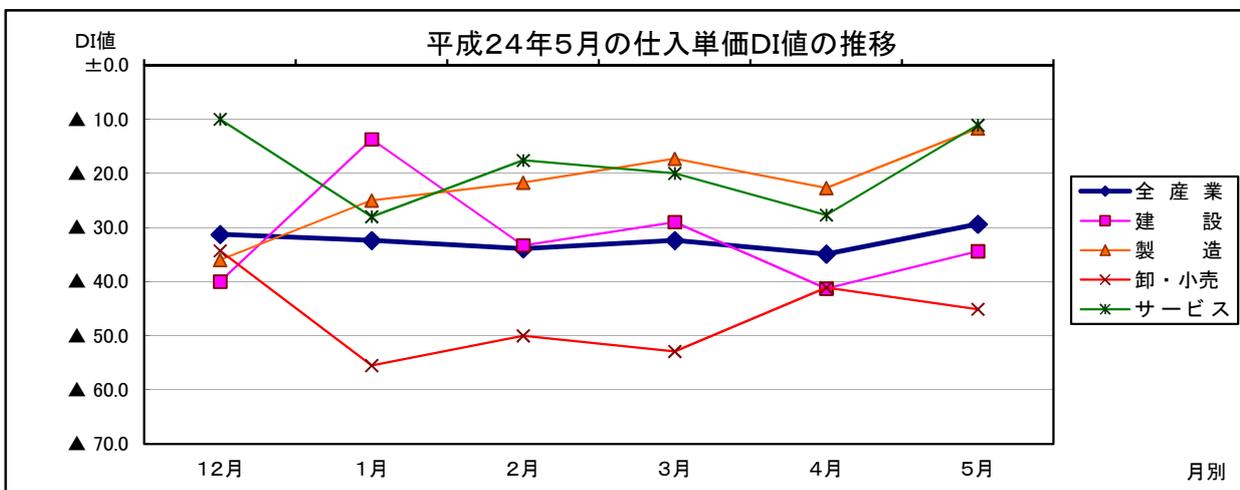
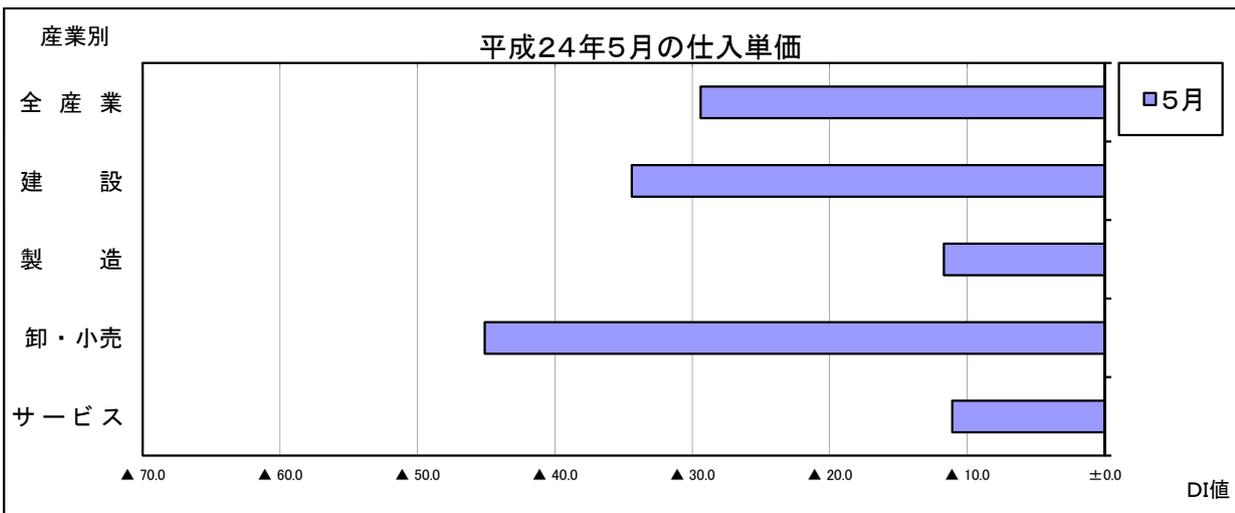
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲11.1(同▲27.7)、製造業▲11.7(同▲22.7)、建設業▲34.4(同▲41.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.1(同▲41.1)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.9(前月水準▲25.2)となり、マイナス幅が6.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲18.1)、サービス業▲5.5(同▲16.6)、建設業▲20.6(同▲31.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲35.4(同▲29.4)である。

平成24年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲31.3	▲32.4	▲33.9	▲32.4	▲34.9	▲29.4	▲18.9(▲25.2)
建設	▲40.0	▲13.7	▲33.3	▲29.0	▲41.3	▲34.4	▲20.6(▲31.0)
製造	▲36.0	▲25.0	▲21.7	▲17.3	▲22.7	▲11.7	±0.0(▲18.1)
卸・小売	▲34.3	▲55.5	▲50.0	▲52.9	▲41.1	▲45.1	▲35.4(▲29.4)
サービス	▲10.0	▲28.0	▲17.6	▲20.0	▲27.7	▲11.1	▲5.5(▲16.6)



【平成24年5月の従業員についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.0(前月水準0.9)となり、マイナス幅へ▲1.9ポイント拡大した。

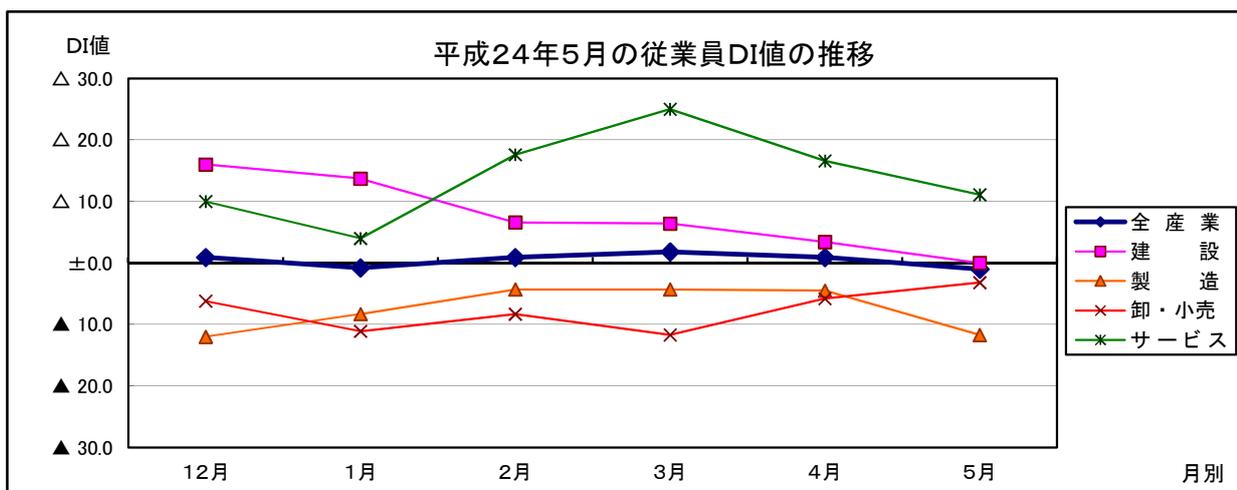
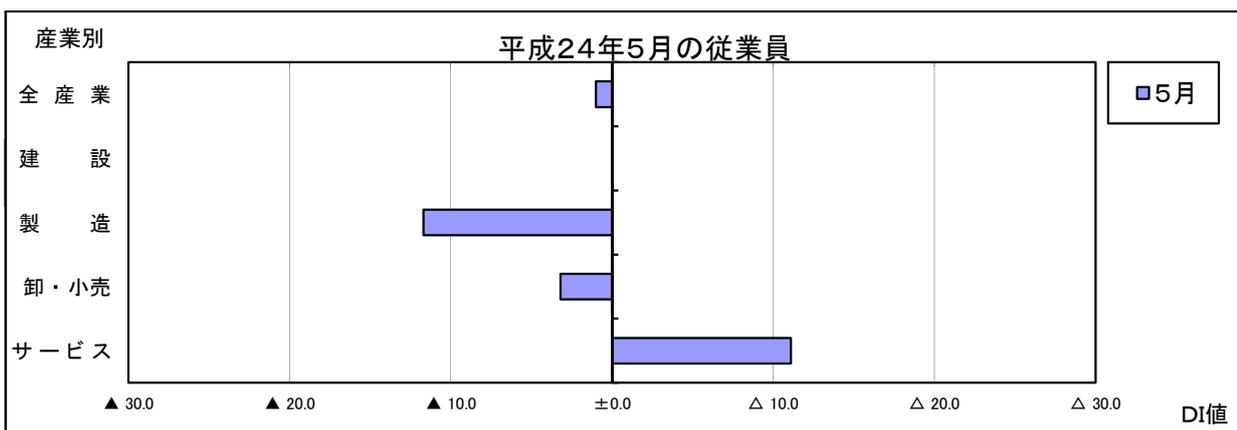
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲3.2(同▲5.8)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業11.1(同16.6)、建設業±0.0(同3.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲11.7(同▲4.5)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.1(前月水準▲4.8)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲9.0)、建設業▲3.4(同▲6.8)である。変らない見通しの業種は、サービス業2.2(同22.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲16.1(同▲14.7)である。

平成24年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△0.9	▲0.8	△0.9	△1.8	△0.9	▲1.0	▲2.1(▲4.8)
建設	△16.0	△13.7	△6.6	△6.4	△3.4	±0.0	▲3.4(▲6.8)
製造	▲12.0	▲8.3	▲4.3	▲4.3	▲4.5	▲11.7	±0.0(▲9.0)
卸・小売	▲6.2	▲11.1	▲8.3	▲11.7	▲5.8	▲3.2	▲16.1(▲14.7)
サービス	△10.0	△4.0	△17.6	△25.0	△16.6	△11.1	△22.2(△22.2)



【平成24年5月の資金繰りについての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.6(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント拡大した。

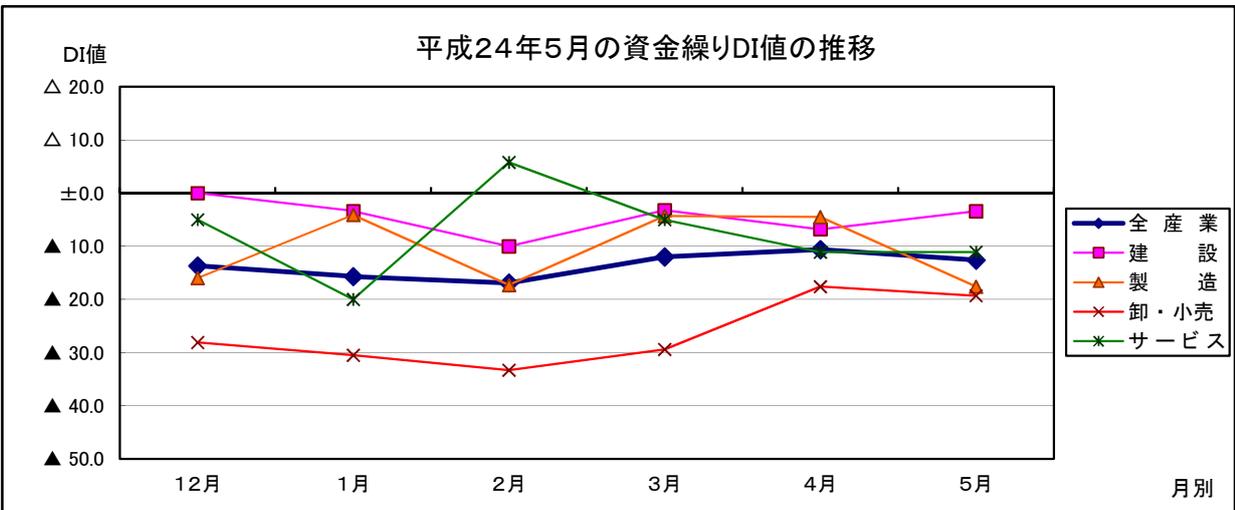
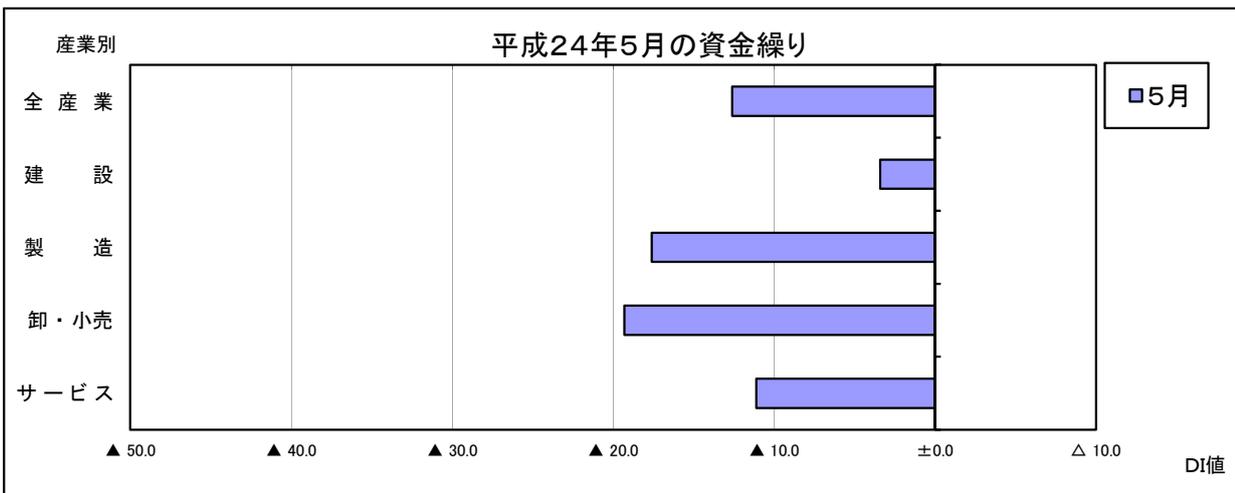
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲3.4(同▲6.8)である。変らない業種は、サービス業▲11.1(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.6(同▲4.5)、卸小売業▲19.3(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲13.5)となり、マイナス幅が0.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲16.1(同▲20.5)、建設業▲6.8(同▲10.3)、製造業▲11.7(同▲13.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲16.6(同▲5.5)である。

平成24年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲13.7	▲15.7	▲16.9	▲12.0	▲10.6	▲12.6	▲12.6(▲13.5)
建設	±0.0	▲3.4	▲10.0	▲3.2	▲6.8	▲3.4	▲6.8(▲10.3)
製造	▲16.0	▲4.1	▲17.3	▲4.3	▲4.5	▲17.6	▲11.7(▲13.6)
卸・小売	▲28.1	▲30.5	▲33.3	▲29.4	▲17.6	▲19.3	▲16.1(▲20.5)
サービス	▲5.0	▲20.0	△5.8	▲5.0	▲11.1	▲11.1	▲16.6(▲5.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.8	▲ 14.7	▲ 31.5	▲ 24.2	▲ 29.4	▲ 18.9	▲ 1.0	▲ 2.1
建設	▲ 17.2	▲ 10.3	▲ 37.9	▲ 27.5	▲ 34.4	▲ 20.6	±0.0	▲ 3.4
製造	▲ 23.5	±0.0	▲ 17.6	▲ 11.7	▲ 11.7	±0.0	▲ 11.7	±0.0
卸・小売	▲ 19.3	▲ 16.1	▲ 38.7	▲ 19.3	▲ 45.1	▲ 35.4	▲ 3.2	▲ 16.1
サービス	▲ 11.1	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 38.8	▲ 11.1	▲ 5.5	△ 11.1	△ 22.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.4	▲ 29.4	▲ 12.6	▲ 12.6
建設	▲ 24.1	▲ 24.1	▲ 3.4	▲ 6.8
製造	▲ 17.6	▲ 11.7	▲ 17.6	▲ 11.7
卸・小売	▲ 35.4	▲ 38.7	▲ 19.3	▲ 16.1
サービス	▲ 33.3	▲ 38.8	▲ 11.1	▲ 16.6

【平成24年5月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設	耐震補強の問い合わせが順調新築の問い合わせは、減少	耐震補強 新築工事減少	一般土木建築工事業
	相変わらず新築着工は低迷。先行きも見えない状態が続いている	新築工事低迷 先行き不透明	石工れんがタイルブロック工事業
	太陽光発電が増加してきている。材料がソリン代の値上がりで利益率は下がっている。輸入製品の粗悪なものが出回らないか心配	太陽光発電 材料費高騰	電気工事業
	売上は有りますが採算が減少しています	採算減少	一般土木建築工事業
	耐震工事に付加する形で受注は増えたが天候が不安定で思ったように工事が進まず余計な経費がかかっている	耐震工事 天候不順 経費増加	塗装工事業
	相変わらず工事単価が下がっている。見積もり依頼はかなりあるが低単価すぎて太刀打ちできない。相見積もりで様子を見ているのなかなか決まらない。柏近辺の物件は減少し都内東京都下の物件は交通費駐車場の経費が出ない状態となっている。当然工事単価の減少経費削減の為に利益はますます無い状態。また天候不順による建築工事の減少遅れも出ており、受注競争が激化している要因かもしれない	工事単価下落 経費削減 利益減少 天候不順 受注競争	その他の職別工事業
	ガス販売量は昨年比較マイナス4%。節電指向によるエネルギー全体の節減が夏に向け進む見込。	販売量減少 節電	ガス業
	今月は畳張り替え裏返し仕上げ工事と一般家庭からの注文が増え好調。フローリングから畳への変更を期待したい	受注増加	内装工事業
製造	引合から受注に向けた動きはあるが、短納期の要求が強くなっている。	受注増加 短納期	その他の機械・同部品製造業
	円高による採算制への影響が懸念されている。また電力の供給いかによっては休日等の変更も必要となってしまうかも	円高 電力供給 休日変更	一般産業用機械・装置製造業
	昨年に比べ動きはあるが半年先の仕事は見えない。電気料金の値上がりも厳しい	先行き不透明 電気料値上げ	建築用・建設用金属製品製造業
卸小売	ゴールデンウィーク後需要が大幅に減った。単価は低価格品中心に動いて高額品は不調。店ごとに売れ筋がばらばらで業界の売れ筋商品が出ていない	需要減少 高額品不調 売れ筋商品	婦人・子供服小売業
	4月度は前年から+1.7%増の売上と微増。利益も微増の結果になった。5月度は前半から少し動きが鈍く、前年のイベントの活発な動きに追いついていない現状がある。DV別に見ると、クールビズで前年好調であった紳士服が今年2年目とうことで、2ヶタ減となっている。後半にカード顧客向けの優待会を実施し、今後のお中元商戦に向けてははずみを付けたい。	売上微増 クールビズ お中元商戦	百貨店
	商店街のなかに問題はなくなりつつある。閉店した所に出店してくる業態は塾と美容室が多いが塾は昼間はやっていないため困る		書籍・文房具小売業
	5月度、GWは天候不順から気温が上がらず盛夏物の動きが鈍かったことに加え、昨年実施した「ゴールデンズペシャルセール」の反動から売上高は厳しい結果となった。母の日需要は直前に集中したが、ギフトよりもレストランの利用でのプレゼントに移行傾向が見て取れた。中旬以降気温も徐々に安定してきたことから、夏物衣料も動き出し盛り返してきたものの、昨年より土日各1日減の影響及び昨年の節電グッズ需要反動などが懸念	天候不順 売上減少 母の日需要 節電グッズ	その他の各種商品小売業
	一方的な電気料の値上げ反対。今年は昨年のような無計画停電にならないよう、企業が協力し合っていないかなくてはならないと思う。TPPについて猛反対、益々デフレが進み、商品は安くなるが賃金は減る一方になる可能性が高い。どうにか安さの競争をしないよう、企業は付加価値で勝負を。	電気料値上げ TPP デフレ進行 賃金減少	各種食料品小売業
	今後夏場に向けての電力不足や電気料金の値上げ等電気に関する不安材料が懸念されます	電力不足 電気料値上げ	菓子・パン小売業
	相変わらず景気は良くなりません。景気が悪いのに仕入単価が高いのは毎年春先は生鮮食品が値上がりするからです。今年も景気の悪さが感じられます	景気悪化 仕入単価上昇	食肉小売業
当店のある商店会から近隣に大型店が相次いで進出してきたためお客様の流れが変わってしまった。また、開店から今年で30周年となるため店舗の改装などもおくれ古い店というイメージを持たれているのではないかと思います。なるべく早い時期に建て替えを行いお客様を取り戻したい	大型店進出 店舗改装	その他の各種商品小売業	

【平成24年5月の業種別業界内トピックス】

	前月に引き続き春季の冷温の差が影響し野菜果実とも期待数量が入荷できず単価高となっています。依然として取引は厳しい状況です。また、放射性物質の基準値変更も2カ月過ぎて落ち着いてきてはいるがまだ不安が残っています。また、浄水場からの水準を上回るホルムアルデヒドが検出された問題で、一時断水となり一瞬に経済低迷を思わせたが、即日対応できたことに安堵しました。	冷温の差 青果物単価高 放射能の影響 断水	食料・飲料卸売業
	上がり続けていたガスの価格が5月は今年最安値を記録し各国も同調しやっと落ち着きを取り戻しつつある。よって4月に値上げしたが値上げ前の金額まで戻しつつある	ガス最安値 価格転嫁	燃料小売業
	改修工事等が動き出している節があり期待している	改修工事	塗料卸売業
サービス	ゴールデンウィーク以後売上の減少があります。色々な原因は有ると思うがひとまず仕入先において単価を下げてもらった。	売上減少 仕入単価削減	酒場・ビヤホール
	競合ホテルの開業(相鉄フレッサイン)により宿泊の一室単価が下がり売り上げを落とす。宴会も企業宴会の減少により売り上げを落とす。益々柏のマーケットが厳しくなったように思う。	競合店開業 売上減少	ホテル
	1室単価は維持するものの、稼働率は伸び悩む。定例の宴会は規模縮小の傾向あり。	稼働率伸び悩み 宴会規模縮小	ホテル
	天候不順の為夏物(衣替え)が厳しい。今後の暑さに期待する。割引セールの実施で売上は前年並みに維持するが利益が薄い。	天候不順 夏物不調 利益減少	その他の飲食料品小売業
	個人需要は堅調、法人需要は先行き不透明	個人需要堅調 法人需要先行き不透明	旅行業
	放射能による影響がますます増えています。外部からのお客様はほとんど無くなりました。地元のお客様のみの売買取引営業を強いられています	放射能の影響 来店者激減	不動産管理業
	賃貸不動産は若い世代は戻りつつありますがファミリー層に関しては柏を避ける傾向は依然減少していない	ファミリー層減少	不動産賃貸業
地域内にお年寄りが多く子どもを見かける事が少なくなりました。人影もまばらで30年後の日本を見ているような気がします。少子化対策の成否に未来がかかっているのは間違いないと思う	少子化対策	不動産賃貸・管理業	
高齢者の増加と富裕層にペットがいきなりペット数は増加していないのに動物病院の数は増えている。動物病院の二極化と競争激化になっています	ペット数行き詰まり 競争激化	獣医業	

◎電気料金値上げ・節電

- ・ ガス販売量は昨年比較マイナス4%。節電指向によるエネルギー全体の節減が夏に向け進む見込。 ガス業
- ・ 昨年に比べ動きはあるが半年先の仕事は見えない。電気料金の値上がりも厳しい 建築用・建設用金属製品製造業
- ・ 一方的な電気料の値上げ反対。今年は昨年のような無計画停電にならないよう、企業が協力し合っていないかと思う。 各種食料品小売業
- ・ 今後夏場に向けての電力不足や電気料金の値上げ等電気に関する不安材料が懸念されます 菓子・パン小売業

◎天候不順

- ・ 耐震工事に付加する形で受注は増えたが天候が不安定で思ったように工事が進まず余計な経費がかかっている 塗装工事業
- ・ 天候不順による建築工事の減少遅れも出ており、受注競争が激化している要因かもしれない その他の職別工事業
- ・ 前月に引き続き春季の冷温の差が影響し野菜果実とも期待数量が入荷できず単価高となっています。依然として取引は厳しい状況です。 食料・飲料卸売業
- ・ 天候不順の為夏物(衣替え)が厳しい。今後の暑さに期待する。割引セールの実施で売上は前年並みに維持するが利益が薄い。 その他の飲食料品小売業

◎売上減少

- ・ 5月度、GWは天候不順から気温が上がらず盛夏物の動きが鈍かったことに加え、昨年実施した「スペシャルセール」の反動から売上高は厳しい結果となった。 その他の各種商品小売業
- ・ ゴールデンウィーク以後売上の減少があります。色々な原因は有ると思うがひとまず仕入先をお願いして単価を下げてもらった。 酒場・ビヤホール
- ・ 競合ホテルの開業により宿泊の一室単価が下がり売り上げを落とす。宴会も企業宴会の減少により売り上げを落とす。益々柏のマーケットが厳しくなったように思う。 ホテル

## 平成24年5月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.4に対し、「CCI-LOBO」が▲17.5で、柏の方がマイナス幅が10.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.8に対し、「CCI-LOBO」が▲9.9で、柏の方がマイナス幅が7.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・サービス業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.5に対し、「CCI-LOBO」が▲15.3で、柏のほうマイナス幅が16.2ポイント大きい。全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、業種は建設業・製造業・卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.4に対し、「CCI-LOBO」が▲25.1で、柏の方がマイナス幅が4.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.0に対し、「CCI-LOBO」が▲1.7で、柏の方がマイナス幅が0.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.6に対し、「CCI-LOBO」が▲10.7で、柏の方がマイナス幅が1.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。

# 平成24年5月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 28.4	 24.1	 17.6	 35.4	 33.3
CCI LOBO	 17.5	 24.9	 7.5	 29.3	 13.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 17.8	 17.2	 23.5	 19.3	 11.1
CCI LOBO	 9.9	 17.6	 0.5	 22.6	 5.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 31.5	 37.9	 17.6	 38.7	 22.2
CCI LOBO	 15.3	 26.4	 6.7	 21.9	 13.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 29.4	 34.4	 11.7	 45.1	 11.1
CCI LOBO	 25.1	 35.5	 29.0	 16.1	 25.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 1.0	 ±0.0	 11.7	 3.2	 11.1
CCI LOBO	 1.7	 7.2	 4.0	 0.5	 4.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 12.6	 3.4	 17.6	 19.3	 11.1
CCI LOBO	 10.7	 12.8	 6.5	 15.0	 12.0

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：平成24年5月17日～23日

調査対象：全国の415商工会議所が3002業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは横ばいで推移  
先行きは慎重な見方が続く

5月の全産業合計の業況DIは、17.5と、前月から0.7ポイントとほぼ横ばい。エコカー補助金に加え、原油や一部の原材料価格の低下が業況の改善を下支えている。しかし、超円高の影響や取引先の海外移転に伴う受注の減少、電力料金の上昇によるコスト増など企業を取り巻く環境は厳しい状況。なお、業況等のDIは、比較対象の前年同月(2011年5月)が、震災後大きく低迷していた時期であることに留意が必要。

先行きについては、先行き見通しDIが20.3(今月比2.8ポイント)と、悪化する見込み。欧州債務問題の再燃に伴う円高の進行に加え、今夏の電力供給不足による事業活動への影響懸念から、先行きは依然として慎重な見方が続いている。

産業別にみると、業況DIは、建設業はほぼ横ばい、製造業、卸売業は改善、その他の2業種は悪化。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「5月に入り、公共工事の発注が活発になつてきたが、民間工事は依然として少ない」(一般工事業)、「今夏の電力供給不足を懸念し、工場関連の設備投資は慎重」(一般工事業)、「市が太陽光発電設備の補助制度を開始、設置工事の増加を期待」(電気工事業)

【製造業】「震災被災地から養殖施設用海水ろ過装置の大型案件を受注」(ろ過装置製造業)、「自動車関連の量産品は好調であるが、電気料金の値上げ等により収益性は厳しい」(自動車部品製造業)、「現在の受注は好調であるが、電力供給不足により停電となれば生産に大きな影響が生じる」(プリント基板製造業)

【卸売業】「燃料価格(LPGガス)が下落しつつあり採算は好転」(農産品卸売業)、「輸入品依存度が高まっていくことから、円高により良い影響がでている」(酒類卸)

売業)、「中国中心からアセアン地域へと市場を拡大。代理店経由から直販への変更を計画」(衣料付属品卸売業)

【小売業】「ゴールデンウィークは雨が多かつたことから、例年売れるキャンプ等のアウトドア商品の売れ行きが不振」(百貨店)、「周辺店でディスカウント店への業態変更が相次いでおり、価格競争が激化」(総合スーパー)、「これから本格化を迎えるクールビズはお中元に並ぶ重要な商機と捉えている」(百貨店)

【サービス業】「観光客数は例年と同程度だが、消費に繋がらない」(レストラン)、「大手家電メーカーが生産拠点を海外に移転したことにより、売上が減少」(運送業)、「タイの生産拠点が完全復活し、自動車部品や電子部品等のアジア向けの輸出が増加していることからコンテナ取扱量が対前年同月比で増加」(港湾業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲34.9	▲34.0	▲24.8	▲35.9	▲42.5	▲37.7
1月	▲31.9	▲29.0	▲25.6	▲22.3	▲40.3	▲36.2
2月	▲33.4	▲29.0	▲33.1	▲21.6	▲2.8	▲19.5
3月	▲23.9	▲33.6	▲15.3	▲27.4	▲30.0	▲18.1
4月	▲16.8	▲24.0	▲9.5	▲17.3	▲27.5	▲9.6
5月	▲17.5	▲24.9	▲7.5	▲14.0	▲29.3	▲13.8
見通し	▲20.3	▲27.4	▲14.7	▲12.9	▲27.4	▲18.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI